

クラス番号	646	担当教員名	火口弥生
テーマ	「在宅支援のための住環境整備とその人にとって価値あるケアを考える」		
著書・論文	「高齢者・医療・介護・現場からのレポート」大阪民主医療機関連合会編 清風同書店 日本福祉大学大学院修士論文（2005年）		
研究課題等	1 「A介護事業所の開設半年間に見えてきた課題」 2 「A介護事業所の基礎理念－ミッション経営を目指して」 3 「A介護事業所の経営戦略を立てる－S W O T分析法を用いて－」		
ゼミナール概要			
キーワード：介護保険 住環境整備 在宅支援 ケアのあり方			
【私の問題意識】 本学の社会福祉学部を卒業後、MSW、障害者・高齢者施設の生活相談員を経験し、現在は介護事業（居宅介護支援、訪問介護、通所介護、福祉用具貸与・住宅改修）の経営に携わっています。その中で、自らも介護支援専門員として日々、ケアのあり方を模索中です。 一人一人にとって価値ある生活支援の一つとして、オーストラリア発症の「ダイバージョナルセラピー」（以下DT）を紹介します。DTは「気晴らし療法」と訳されています。一言で言うと『朝、目が覚めたとき、ベッドから起き上がる理由を持てるように手助けすること』理由を提供するのではなく、自身で見つけられるよう側面的な支援を行います。人は誰しも楽しむ権利を有しています。その権利を保障することが本来のケアの目標です。しかし、認知症や寝たきりの方との関わりの中でその権利を保障することの難しさを痛感します。ライフスタイルや価値観を知ること、そしてエンパワメントの視点を忘れないことが大切です。DTについて学びを深め、ケアのあり方を。また、生活の質に大きく影響する住環境整備についても、目を向けていきたいと思います。			
【ゼミの目標】 卒論はゼミ論形式です。協同作業を通して人の意見を聴く力、思いを自分の言葉で表現する力、皆の意見をまとめる力を身につけることを目標とします。 テーマの設定から納得のいくまで話し合うことを徹底したいと思います。			
【ゼミの進め方】 ①DTについて DTを文献より学ぶ DTを実践している福祉施設での体験学習 ②住環境整備について 東京国際福祉機器展（HCR）に参加。福祉用具の適合や活用方法をまとめ、グループ発表 モデルルームでの高齢者疑似体験や住宅改修事例より住環境整備の重要性を学ぶ 体験学習や見学・グループ発表を通して、目的達成のためのプロセスの組み立てやプレゼンテーション能力を身につけることを目指します。3年後期には卒論テーマを決め、テーマにそった文献検索や体験学習を進めていきます。			
担当教員からのメッセージ			
 ゼミは自己表現の大切な場です。ゼミの仲間の力を借りて自分を表現することにチャレンジしてください。貴重な時間ですので、遅刻・無断欠席のないようにしてください。			